琉球大学学術リポジトリ

東北タイの開発と市民社会形成のダイナミズム -2つの農村の比較から-(2)

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学人文社会学部 公開日: 2024-03-29 キーワード (Ja): タイ, 開発・発展, 市民社会, クーデター, プラチャーコム キーワード (En): 作成者: 鈴木, 規之 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002020253

東北タイの開発と市民社会形成のダイナミズム
—2 つの農村の比較から—(2)

鈴　木　規　之
Noriyuki Suzuki

Dynamism of Civil Society Movement and Development in Northeast Thailand (2)

要約

本研究の目的は、タイの開発・発展のあり方をその主体や方向性の議論の中でタイの学界で大きく注目されている市民社会概念に着目し、市民社会の基盤となるプラチャーコム（住民組織、住民による小グループ）を調査・研究することにより市民社会形成のプロセスを実証的に明らかにすることである。これまでミクロレベルでハーバマス型の市民社会を農村で構築しつつあるコンケン県ウボンラット郡トゥンポーン行政村（以下 T 行政村）と出稼ぎに依存し政府の援助に頼ってきたウドンタニ県クワパワピー郡パンドーン村（以下 P 行政村）の比較研究を 2000 年から行ってきた。

本稿では 2006 年のクーデター以降の市民社会形成のダイナミズムを下敷きに分析する（前号（1)、[鈴木：2022])。そして 2019 年－ 2023 年のダイナミズムをコロナ禍での影響も考慮に入れて分析する（本号)。

キーワード：タイ　開発・発展　市民社会　クーデター　プラチャーコム

5. 2019 年の総選挙前後の 2 つの農村のプラチャーコムのダイナミズム

2019 年 3 月 24 日には、2014 年 5 月のクーデターで軍が政権を握って以降初めての総選挙が実施された。2014 年 2 月以来 5 年ぶりの総選挙である（2014

年の総選挙は憲法裁判所によって無効となったため、実質は 2011 年以来 8 年ぶりの総選挙である）。選挙結果としては、タクシン派赤シャツ系のタイ貢献党が第 1 党となったが、過半数に達せず、また暫定政府の任命による上院議員も首相指名選挙に参加できたため、プラユット暫定首相（軍事政権）の率いる国民国家の力党が連立政権を樹立した。

このような状況の中で、調査村はどのような状況であったのか。選挙前の 2019 年 3 月 21 － 22 日に T 行政村、P 行政村においてフィールドワークを行い、キーパーソンへのインタビューを行った。

(1) T 行政村でのインタビュー

T 行政村は、1994 年にアピシット・タムロンワランクーンとターンティップ・タムロンワランクーン医師夫婦が勤務する公立のウボンラット病院を拠点に仕事の傍ら NGO 的活動としてコミュニティ開発に関わり、強いコミュニティづくりを模索したところからハーバマス型の市民社会形成が始まった[1]。そこで、2019 年の調査ではコミュニティ開発のキーパーソンである① T 行政村事務局長、②主婦グループの代表、③集約農業（カセート・プラート）を行う農民の長老、④ウボンラット病院で、コミュニティ開発に携わる看護師に選挙のコミュニティ開発への影響を中心にインタビューを行った。

①ドゥアンダオ・ジェームジャイ、T 行政村事務局長へのインタビュー

トゥンポーン地区は政府プロジェクトに一部が支援されることで強くなっている。たとえば、アピシット医師とターンティップ医師のプロジェクトで、障害者のためのセンターを設立して障害のある人々に仕事を与え、その後指定されたエリアで生産物を販売している。かつては障害のある人たちが工場のスペースを利用して家具を作っていた。現在は行政村役場敷地を使用している（予算の支援あり）。私は、コミュニティは強いと見ている。まずはリーダー（＝区長）が強くなければならない。私の視点では、リーダー同士が対

立していて強くない区が一つだけある。現在、ピットトーングランプラプロジェクト（王室のイニシアチブによる財団の農村の貧困削減を目的としたプロジェクト）が進行中で、農家のために水源を管理し、資材を探し、また市場への供給するのを手助けするものだ。

政治面では、2014 年のクーデター後、トゥンポーンのコミュニティには紛争や対立はなかった。2019 年の選挙では、人々はかなり政治に目覚めた。変化を求めている。コンケン県第 4 選挙区ではピチット（国民国家の力党）とムクダー（タイ貢献党）がかなり人気がある。

ポー・トンバイ（後出）の集約農業集団プロジェクトは今も続いている。でももう強くない(5 区のプロジェクト)。また、電力庁が支援するノーンデーンプレーング区（3 区）のプロジェクトがある。コミュニティエコノミーコンテストを行ったり、ゴミの分別を外部に勉強・見学に行き、販売したりする活動もある。

②メー・ヌーピアン、5 区主婦グループの元代表（プラサート・タムボン評議会副議長、元村長／カムナン（2022 年は議長）の妻、65 歳）へのインタビュー

現在は高齢や持病のため代表を降りているが、5 区では、コミュニティプロジェクトとして村落基金の活動（6 ヶ月ごとに配当）を行っている。それを始めたのはアピシット医師だった。コミュニティの人々が最初に世帯ごとに 300 バーツを支払い、当初はメンバーがローテーションで生産物を販売し、現在は販売員を月給 3,000 ～ 5,000 バーツ雇用している。会員に 3％の株式を配当しており、毎週日曜日に製品をチェックする活動がある。5 区の村落基金は他のコミュニティよりも強い。他の区ではもう存在しない。村やコミュニティの人々は貪欲さが少なく、より正直だと信じている。地域の人々ががんばって維持している。正直なリーダー、正直な売り手が担っているため、製品取引の詳細はつねに明らかにされている。委員会は絶対で、支払わない

顧客もフォローアップしている。

現在の区長は村人たちをほとんど助けない。しかし、村の人と非公式の指導者（ポー・プラサート、ヌーピアンの夫）たちの結束は強く、ピットトーングランプラプロジェクトを中心に常に様々なプロジェクトで活動中だ。ピットトーングランプラプロジェクトは、水管理設備（水路の掘削）を支援し、コミュニティ自身で行えるように、また、香りのよいココナッツの栽培も奨励されている。プロジェクトは収穫物を村人から購入して販売している（1 ライあたり 40 本の木を植える契約）。

バーンノーンプー（5 区）の村人たちは水の管理について強く結束･団結し、水路を完成するまで掘削した。そこが他の村とは違う。水路の掘削は、村人たちは以前にも自分たちでやったが、今はプロジェクトスタッフやコンケン大学の学生たちが手伝いに来てくれている。今年は水が無くダムも放水していないため、二期作目の稲作ができず、助けが必要だ。月に一度は水の放水を要請したが、自分で水をくみ出さなければならない。しかし村長はこのことにあまり関心がない。ポー・プラサートはダム放水の要請を主導した。郡長／知事に提案し、行政村長の署名を経て村人たちに知らせ、水の利用者として署名した。先月（2 月）は 7 日間放水され、村人たちはそれを自分のため池に保管しなければならなかった。

選挙では、村人／農民を助けることができる政党を選択している。それは米やサトウキビの生産価格の決定に影響を与える政党だ。タイ貢献党候補者はポー・プラサートの友人で以前はお互いに助け合ってコミュニティを支援した。農民経済の改善に貢献するのは国民国家の力党、貢献党、新未来党だと考える。

第 5 区の集約農業プロジェクト（カセートプラニート）は活動がなくなった。または 5 区にはコミュニティグループ、機織りグループ、スイートコーン作付グループ、協同組合グループなどがある。

③集約農業を行うポー・トンバイ（75 歳）へのインタビュー[2]

私は混合農業学習センターを開設して、現在は、学校外教育センターが学習できるように開かれている。現在、ポー・トンバイは手を引き始めた。高齢なので子供たちに続けてもらいたいと考えている。

このコミュニティには、ピットトーングランプラセンターがある。それでも、ここに地元の知恵を学びに研究訪問に来る人たちがいる。また、地域／コミュニティ内の既存のプロジェクトも促進している。ピットトーングランプラプロジェクトは、コミュニティの問題を村の人に尋ねた後で予算がつき、村の人の水管理に役立った。

村人たちは水路の建設に参加した。プロジェクトの予算で受益者のグループとして互いに助け合おうと、村人たちが手伝いに来た。他の区や行政村から来た村人がおり、1 区あたり 10 人。コンケン大学の学生もいて、2 ～ 3 年前にも手伝いに来た。

バーンノーンプー（5 区）で水路を掘った後、T 行政村の他の区にも拡大した。村の人、特に農家は非常に満足している。しかし今年はポンプ場からの放水はなかったため、農家が二期作目の農業を行うことが不可能になった。カセートプラニート（インテンシブ・集約農業）プロジェクトは、現在、正式なプロジェクトではない。もう耕作地を増やさず、収穫のみである。村人が自分で応用しているが、グループ化してはいない。このグループは、過去には村の人と病院の医師だけが教えに来た（1 ライの土地に、短期および長期的に野菜を植えた。バナナ、パパイヤ、各種多年草などを組み合わせて）。トゥンポーンのコミュニティの強さは、かつてはグループのリーダーがネットワークを作り、村人とともに大事に育ててきた（村人が一緒にやる）ところにあった。政府には支援する予算がなかった。現在、郡の農業担当者は理解し始めて、コミュニティへの支援が増えている。たとえば、ピットトーングランプラのプロジェクトである。新しいプロジェクト（ピットトーングランプラ）が古いプロジェクト（プラニート・集約農業）を補完したため、コ

ミュニティは強い。

コミュニティでは政治に関する意見の相違の問題があったが、深刻なものではなかった。2014 年のクーデター後、コミュニティは赤シャツと黄シャツに分かれていた頃よりも平和になった。2019 年の選挙前に、さまざまなメディアで選挙活動が行われた。過去の選挙運動では相手の候補について相互に言及していなかった。でも今はそのことで私自身（ポー・トンバイ）はもう興味がない。私は政策に従って政党を選ぶ。幸せなコミュニティの構築に重点を置く。人々はとても政治に目覚めていると思う。そして選挙で投票する可能性が非常に高い。

④ウボンラットの看護師でコミュニティ開発に携わるチャヤーニット・ブットディー氏へのインタビュー

トゥンポーンのコミュニティは強力で、グループを結成し、活動を行っている。たとえばメー・サムラン・トンコートセンター、ウボンラットモデルファーマーズセンター、ポー・トンバイのプラニート（集約）農業があり、西洋人のマーティンは今もプラニート農業を続けているが、講演者として引き受けることはめったにない。

持続可能なまちづくり財団（アピシット医師らの財団）が社会的企業へと発展した。障害のある人の可能性を促進し、木製家具を作る。元々はサップソンブーン郡の工場で作られていた。障害者の生活の質を向上させる法律については、33 条、障害者を職務（企業）で雇用する義務がある（1%）、34 条、企業に社会開発・人間の安全保障省に障害者を 1%雇用しなければ（障害者基金へ）送金することを義務づける。35 条、障害者を雇用しなければ、雇用者はプロジェクトを実施して障害者の雇用を促進する、となっている。

樹木銀行プロジェクトは、月に一度会議を行い、植林する人を見つけ、また、農家から農産物を 1 世帯当たり 500 バーツで購入する。野菜の種類は現在検討中だが、干ばつの影響で生産に問題が生じた。障害者支援プログラム

は、彼らにスキルと能力を与え、その人たちが集まって、プロジェクトを計画し、全員の給料から工場を開設する。竹庭のギャラリーを提供する。そして障害のある人々のために貯蓄をする。

選挙の視点だが、私は中立で支持政党はない。中立への協力を求める手紙が来て、公務員は 1 か月間その地域へ行くことを控えるように（選挙運動をしないように）とのことだった。郡は人々に投票に行くようキャンペーンを実施した。

(2) P 行政村でのインタビュー

P 行政村は、海外を含めた出稼ぎに依存し、またタクシン政権のもとでのポピュリズム政策によるばらまきの恩恵を受けた東北タイの典型的な農村である。人々は自助努力によるコミュニティ開発よりも政府からのプロジェクトや援助に期待する。T 行政村を「強い」農村であるとすると、P 行政村は「強くない」農村であるとこれまで筆者は分析してきた［Suzuki:2017 および Suzuki and Somsak: 2016］。2019 年の調査では① P 行政村事務局長、② P 行政村副事務局長、③元 2 区区長で元 P 行政村長、④現 P 行政村第 2 区区長、⑤ P 行政村を選挙区とする国民国家の力党の立候補者に T 行政村と同様にインタビューを行った。

①ワンチャイ・シリマ P 行政村事務局長へのインタビュー [3]

多くのパンドーンの人が海外に出稼ぎに行った。それはプラチュアップ・チャイヤサーン元議員（元大臣）が多くの人を海外出稼ぎに派遣したからだ。特にサウジアラビアが多く、日本に働き（不法）に行った人もいた。パンドーンの住民は適応力が優れており、グローバル化に伴った海外出稼ぎを行ったと考える。地域の人たちは海外に出稼ぎに行くことが多いため、地元の発展にはあまり関心がない。その理由は、稼げる土地がほとんどなく、土地のほとんどは資本家の所有。日雇いに行ったり、商いをしたり、都市に海外に働

きに出る。コミュニティの人々の 10%は公務員や商人、もしくは自分の土地で生計を立てているようだ。(P 行政村、1、2、7、10 区)

パンドーンのコミュニティはグループを結成することが少なく、弱い。ほとんど老人が担い手。地域にいるのでグループを結成し、活動することができる。老人クラブは、月に一度の活動があり、毎月第一金曜日に一緒に踊ったり夕食をとったりする。若者は生計を立てなければならないため、一緒に活動することはほとんどない。女性グループは強くなく、活動が継続しない。子どもと若者の議会があり、年に一度スポーツイベントの活動がある。

今日の政治はより多様化している（元は赤シャツの地区）。 新しい世代はたくさんの政治についての情報がある。新しい世代は変化を望み、政治への関心が高まっている。パンドーンの政治的動向は赤シャツ派（タイ貢献党）支持にとどまる傾向にあるが、票を分け合う政党も出てきた。

②カッチャー・トータリー、コンパーンパンドーン市副事務局長へのインタビュー

村の人は P 行政村からの助けだけを待っているから、コミュニティにはグループ結成ができないという問題がある。発展している（モノ）が発展していない（心）ように感じている。 国家は都市社会のモデルに従ってコミュニティの発展と繁栄のための基本構造を発展させるが、コミュニティの人々は、グループの結成もなく、自分たちのコミュニティの強化に参加しない。また、経済的に成長するという環境によりグループの結成が減少している。

パンドーンの人々の間では意見の対立が生じ、コミュニティのリーダーにも対立が生じている。自治体と地元の不和があり、共同統治には対立が生じている。一つではない。自立や自助努力といった考え方が、このコミュニティはそれほど多くない。行政側はコミュニティにさまざまな活動の責任を持ってもらおうとしているが、継続しない。職業別のグループなども消え始めた。予算がある時だけ実質的なグループ活動が行われる。

政治的には、国家レベルの政治的対立が地域の対立に影響を及ぼしている（政治家個人や政治団体を支援する人々がいる）。地域レベルでも、政治が対立を引き起こしている。たとえば区長選挙で自分の利益のために投票するなどである。赤シャツはまだ隠れて存在している。今日の政治は悪口ばかり、たとえば「私は世間知らずだ、あなたも世間知らずではない」「自分は買票しないが、おまえはしている」などの声が聞こえる。

2019 年の選挙は、人々は目覚めていて関心が強い。イサーンの人々は愚かだと思われているが、実際はとても賢い。情報がどんどん入り、学んでいる。若者は変化を見たがり、目覚めている。この国は発展しているように見えるが、地域では人々の参加は少なくなっていると感じる。

③ポー・サムルワイ、84 歳（元 2 区区長、元 P 行政村長）[4]

政治への意見としては、新未来党には経験がない。ここの選挙区は 43 の政党が立候補して票が割れている。そのような現象は見たことがない。党の政策は変わらず、言っていることができていない。今年は選挙運動をする人が少ないと感じる。

④ドークマイ・プラスワンシリ、第 2 区区長（女性）

コミュニティ開発のグループについては、村落基金グループ（方針もしっかりしており、会員数は 162 世帯中 62 世帯）、保健ボランティアグループ、女性グループ（2、3 年前より結成され、バッグ、カップホルダー（コースター）、せんべい、木製テーブルを作る）などがある。

コミュニティ開発局が、新しい女性役割グループを形成させた。グループが設立された当初は、ネーム（発酵ソーセージ）を作った。しかし、女性たちは仕事に行かなければならないため、中止した。そしてコミュニティ開発局の支援により女性役割グループを結成した。予算もあり、女性がとても強くなった。3 区のバーンノーンファーでは、カオラーム作り（現在も活動中）

を行っている。女性グループはすべての区にあるが、各区が同じことをするわけではなく、7 区では玄関足ふきマットを作っている。

村の基金は会員が期限までに返済しないという問題を抱えている。しかし、対立は激しくなく、妥協できる。私（ドークマイ区長）は保健ボランティアでもあるが、権限を他の人に分散していて、グループのリーダーではない（かつてはグループのリーダー）。

政治の話になるが、村人たちは候補者ではなく党の政策に目を向けた方がよいと言っている。選挙運動中は町内放送で選挙へ行くようにとの放送がある。しかし、コミュニティで選挙運動の行列に加わる人々に 1 人あたり 1,000 バーツのお金を配っている。

⑤モントリー・プムチャイ国民国家の力党国会議員候補へのインタビュー

モントリー氏はタイ貢献党（県会議員）から国民国家の力党（政権党）に党を移して立候補した。彼は変化を見たいと望んでいたため、心の中に葛藤はなかった。 人々は党派よりも人物で選ぶだろうと信じている。「政党は寄り添わないが、人は寄り添ってくれる。」と述べた。また彼は、「村人たちはタイ貢献党が好きであっても、自分を支持してくれる人たちはタイ貢献党が機能せず村にもいないため、村人は依然として自分たち（現政権党）を選択すると信じている。」とも述べた。

2019 年の選挙では、候補者はたくさんいる。なぜなら憲法草案によると政治団体を持つことが必要で、多くの新しい政治家が誕生するために多くの政党が誕生した。そして発展中のタイでは、あらゆる人々が政治にもっと関心をもつように奨励する必要がある。そしてタイの民主主義が発展した頃、残る政党は少なくなるだろう。

タイは利益を分配するようになった議会制独裁国家で、憲法の制定はタイの社会的および文化的背景に従うことが不可欠だ。選挙運動については、社会は議員に買票をさせ、代表者は非常に腐敗した政治家を生み出す機会に

なってしまっていると考えている。そして「候補者全員は誰も買票したくないのだ」と強調した。

(3) T 行政村と P 行政村のコミュニティのダイナミズム

①村の情報提供者の視点に基づくコミュニティの強さ

T 行政村の職員は、T 行政村の職員や村民がコミュニティがより強固であると認識している。2014 年の革命後、村における対立はなかった。しかし、2019 年 3 月 24 日の選挙では、人々は本当に目覚めており、さらなる変化を求める傾向がある。そして、政治に関しては意見の相違もある。しかし、この地域では深刻な対立は発生しなかった。

一方、P 行政村では、グループやグループ活動があったものの、コミュニティの力が弱かった。ほとんどのグループ活動は継続的ではなく、グループのメンバーのほとんどは助けや、政府機関の職員による活動の奨励を待っていた。パンドーンは都市コミュニティ的な暮らしであり、海外への出稼ぎ労働者も少なくなく、人々は地域開発にあまり関心を持っていない。集まって一緒に活動することは難しい。しかし、選挙の情勢に関しては、トゥンポーン地区と同様、意見の相違はあるものの重大な対立は見られない。

②トゥンポーンのコミュニティを強化する活動

村人たちが集まって村落基金グループの活動、コミュニティ協同組合の設立などさまざまな活動を一緒に行っている様子が見られる。特に第 5 区バーンノーンプーでは、現在も継続的な活動が行われており、メンバーは他のコミュニティよりも強力な運営に参加している。ピットトーングランプラプロジェクトは農家の水源提供を支援するもので、生産のための原材料の調達、農家向けの市場開拓、ツリーバンク（木の銀行）の活動があり、メンバーは月に一度集まる必要がある。活動を継続するために後継者に参加してもらっている。さらにトゥンポーンでは、知識、可能性、技術を持った障害者が木

製家具工場を開くためにグループを結成している。みんなの給料から集めた資金で竹庭のギャラリーをつくり、また持続可能なコミュニティ開発財団の支援のもと障害のある人々のための貯蓄グループを創設した。T 行政村組織とウボンラット病院は、以前は工場の土地を使って生産していたが、現在は障害のある人々が物品の生産に使用するために、行政村の区域の使用を許可している。その後、指定されたエリアで販売し、その結果よりトゥンポーンはグループの結成やグループ活動、強力なグループメンバーがいることでより強化された。

③パンドーンのコミュニティエリアを強化するための活動

高齢者クラブでは、伝統的なダンスの活動があり、毎月第一金曜日に一緒に踊ったり、食事をしたりする。女性グループもある。継続的な活動はあまり多くない。

子どもと青少年のための協議会活動は、年に一度スポーツイベントを開催する。ある行政担当者は村人たちはグループを作っているが、パンドーンのコミュニティには「発展するのに発展しない」という特徴があると言っている。というのは、自立第一ではなく政府からの援助を待つことに重点を置いた活動だからだ。開発はコミュニティのニーズに応じた開発というよりも、政府の地方機関または中央からの開発で、コミュニティを本来あるべきように強くすることはない。さらにパンドーンでは、人々の考え方に違いがあるという問題がある。それは過去には人々が相互依存の関係にあったが、都市的に発展し繁栄した後は人々をより利己的にさせ、シェアする方法もわからず、自分自身や身内のために利益を得るような状況をつくり出している。そうなると開発やボランティア活動への参加が減少することになる。また、対立の原因の一つは、地方政治にある。

しかし、パンドーンのコミュニティリーダーの観点から見ると、女性のグループやその活動は他のグループに比べて強い。特に女性の間では、布製の

バッグ、コースター、木のテーブル、せんべいなどを作る活動が行われている。提供された情報から判明したのは、元々は女性グループを立ち上げ、発酵豚肉（ネーム）やソーセージ作りからスタートしたが、女性の負担が大きく、お金を稼ぐために外に出て働かなければならなかったためこのグループの活動は結局なくなった。しかし、郡コミュニティ開発局の支援により、約2～3年前に新しいグループを設立することができた。

④地域レベルでのグループ、コミュニティ、組織の開発作業

ウボンラット病院は支援する関連機関と協力し、非常に重要な役割を果たしている。また現在外部からの機関が関心を持ち、ウボンラット郡の人々を助けに来ていることも明らかになった。特にT行政村では、ピットトーングランプラプロジェクトなどが重要である。5区が先導している。

⑤コミュニティの強さ

村の人々の一部は、コミュニティのリーダーが弱いとコミュニティが強くならないと考えている。メンバーにはインフォーマルで強力なリーダーがいるという実態があり、それはコミュニティ内の強さを高めるのに役立っている。

村人たちは、リーダーが強力で、国政や地方のリーダーたちとつながることができれば、良いプロジェクトを引き寄せることができるだろう、そして、コミュニティの人々の問題の開発や解決を支援するための予算を持つことができて、コミュニティを強くすることができると考えていた。トゥンポーン地区では、一部のフォーマルなリーダー（区長など）の結束が弱く、村の開発にも興味がないため、インフォーマルな（農民の哲学者またはリーダー）がコミュニティの発展を支援し、コミュニティの問題も解決できるようにするためにさまざまな機関と連絡・調整する役割を果たした。

⑥ 2019 年の選挙への目覚め

村の人々は非常に関心があり、目覚めている。それは 2014 年のクーデター後初めての選挙であり、新しい世代が政党から立候補しているなど多様な政治家が出現した選挙だったからである。選挙の形も昔とは変わってきており、人々はラジオやテレビのメディアからのさまざまなニュースや情報に関心を持ち、選挙区で立候補した政治家の政策に耳を傾けるようになった。人々は選挙の情報を村の日常生活の中で、具体的には商店街、寺院、集会所などで意見交換している。会話の性質は本当にインフォーマルである。

⑦選挙戦の雰囲気

村の人々は、2019 年の国会議員選挙に立候補する政治家の選挙運動があまり活発ではないと感じていた。政治家の選挙運動では、政党の政策について演説したり、自分の政党や選挙で選ばれた議員が社会や国民にどのような貢献をするかどうかを国民に伝えたりするだけではない。しかし、現在の選挙運動は批判ばかりで、相手候補の信頼を失わせ、村の人々が選挙に注目し、身近なものと感じさせるようにするのだ。

⑧政党を選ぶ

村の人々の一部は、政策やどの政党が農業経済の改善に貢献するか、たとえば米やサトウキビの価格を支えるか、幸せなコミュニティの構築に重点を置いているかなどで政党を選ぶ必要があるとみている。 特に、トゥンポーン地域の水利用に問題を抱えている農民グループは、政党を選択するという決定が、農業用水不足の問題を解決する取り組みに結びついていると指摘した。なぜなら、現時点で政府は農民への具体的な支援をあまり重視していないからだ。たとえば、ウボンラットダムの貯水池から乾季の二期作目の稲作用水の利用を禁止する問題や水が月に 1 回しか使えず十分でないという事例などがある。

⑨政治への見方

現在、村の人々の政治的見方は、黄シャツの政党グループ支持と赤シャツグループ支持の 2 つの考えのグループがまだ存在する。この地域の村人のほとんどは赤シャツである。過去はパトロン―クライアント政治が長かったが、2019 年の選挙ではさまざまな政党や多様なグループが存在するようになった。これにより、村人たちの考えも分散し、より多くの政治団体を支持するようになった。特にタイ社会に変化が起こるのを見たいと思っている若者たちは。

⑩選挙の結果

T 行政村の属するコンケン県第 4 区では、タイ貢献党のムクダー候補が勝利（45,092 票）したが、新未来党の候補も第 2 位で得票数 30,603 票と農村地域としては健闘した。P 行政村の属するウドンタニ県第 6 区では、タイ貢献党のチャッカパット候補が勝利（41,307 票）し、新未来党の候補が第 2 位（19,422 票）、インタビューを行った国民国家の力党のモントリー候補は第 3 位（13,317 票）となった。

6. コロナ禍でのプラチャーコムのダイナミズム

2020 年の 2 月末からのコロナウイルスの感染拡大は、タイ国内にも広がり、県をまたぐ移動の規制・禁止など軍事政権下のタイでは日本に比べて強制力を伴った措置が実施された [5]。

2022 年になってようやく感染者が減少し、2022 年になってようやく感染者が減少し、同年 8 月に 2 年半ぶりにフィールドワークの実施が可能となった。そこで、8 月 20 － 22 日に P 行政村と T 行政村においてインタビュー調査を実施した。

具体的にはコロナ禍でのコミュニティの状況、とりわけ村の人たちの協力関係やグループ活動等を中心にインタビューを行い、コミュニティの強さに

どのような影響を与えたかを分析する。さらに、プラユット首相の憲法裁判所による職務の一次停止（8 月 24 日－ 9 月 30 日）により、解散・総選挙が近いという噂が出る政治情勢からマクロ（国家）レベルの市民社会形成のミクロ（地域）レベルにどのような影響を与えているのかも分析する。

(1) P 行政村でのインタビュー

P行政村では2019年に引き続いて、①現P行政村第2区区長にインタビューを行い、さらに②バンコク近郊在住元 2 区区長で元 P 行政村長の息子にもインタビューを行った。

①ドークマイ・プラスアンシリ第２区区長（55 歳）へのインタビュー

コロナ騒動の中での村の状況は、2 ～ 3 年前には感染者が多かったが、今は少なくなった。仕事を失って家に帰った人もおり、経済状況が悪いので村で商売を始めた人もいる。保健ボランティアの結束は強い。市自治体やさまざまな部署からサバイバルバッグを入手して患者のところに届ける。2 区には 17 人､7 区には 27 人の保健ボランティアがいる。各区には保健ボランティアが 10 人以上必要で、1 人あたり 10 ～ 15 世帯担当している。誰かが新型コロナウイルスに感染した場合、ゾーニング（zoning）する必要があり、保健ボランティアはまず区長に報告して、感染者のための薬の準備をした。

2 区の保健ボランティアは男性 1 名、女性 16 名となっている。他の区も女性の方が多く、男性は 1 ～ 2 名だ。このように、保健ボランティアはそのほとんどが女性で、女性グループに参加している。その理由は男性はあまり保健ボランティアになることを望まず、また女性同志だと会議がよりスムーズになるためだ。コロナ以外にもデング熱の問題があり、蚊の幼虫の調査や駆除、水がめの洗浄、3 ～ 7 日ごとに水を変えるなどの作業をしている。

現在、新型コロナウイルス感染は減少したが、まだまだ手洗い、マスクの着用、ワクチン接種などの対策がとられている。保健ボランティアは、ワク

チン接種の時、まだ接種していない人がいるかどうかの調査を手伝った。高齢者が予防接種を受けると、すぐに疲れる、四肢の衰弱などの副作用がごく一部生じた。多くの高齢者はワクチンをすぐに接種には行かなかったが、死者が出たと知ったので接種に行った。

コロナ流行の影響については、去年は、新型コロナウイルス感染症による死亡者が区で3名出て、死者は火葬した。今は普通にお葬式にも行けるようになったが、家で食べるために食べ物を包んで持ち帰る。感染防止のため一緒に座って食事ができない。祭りなどのエンターテイメントを企画できなかったが、今年は緩和されて企画できるようになった。ただし、以前と同様に厳格な感染防止策をとる必要がある。今年は緩和されてきたが、完全な解除ではない。しかしグループの活動はできるようになった。保健ボランティアたちはコロナ禍でも懸命に働き、学校に通う子供たちと患者の世話をした。

政治からの影響だが、ウドンタニ県第6選挙区選出のチャカパット・チャイヤサーンはタイ貢献党からタイ誇り党に移籍した。パンドーンの人々は、政党と候補者のどちらを選択するかということについては、おそらくチャイヤサーンという姓の人を選択する。しかし一方で政党はタイ貢献党を選ぶ、というようにねじれ現象が起こっている。そのため、チャカパットが政党を変えたとき、人々はタイの誇り党をもっと知る必要に迫られた。

チャカパットは選挙のための自己紹介を始めた。タイ貢献党から誰が出るかはまだ分からない。もうひとりの立候補予定者であるモントリー・プムチャイは、3年前、国民国家の力党に所属していたが落選して、タイ未来建設党に移籍のうわさもあったが元の党に戻った。党を移籍したチャカパットの政策は地域の同志が離れ離れにならないようにとのことだ。パンドーンの人々は現政権の国民国家の力党を支持しておらず、村の人たちは人を選ぶか政党を選ぶか考え中だ。このように、タイ貢献党が候補者を出せば、競争はさらに激化すると考えられる。そして今でもタクシンを懐かしむ人がいる。

今でも村の人々は海外出稼ぎをしており、かつてはサウジアラビア、台湾、

韓国、日本、香港だったが、今は韓国と台湾によく行き、ごく一部は日本に行く。現に 7 区のスリヤー区長、プラヤット区長は海外で働いていた。

ドークマイ区長は、「コロナ後、コミュニティは強化されたか」の問いに、子どもたちや孫がパンドーンにくるときのために強くなければならない。」と答えた。また、「区長にとって村の問題とは何か？」の問いには、「失業問題。コロナから戻ってきたが仕事がない。そのため戻ってきて商売をする人が多い。」と答えている。

パンドーンの就業構造については、「帰ってきて農業を手伝う人はいるか？」との問いには、「いる。しかし、肥料価格の問題があり、生産コストが高い。」と答えた。パンドーンでは、農業、日雇い、公務員の順で多く、失業者はまず両親の農業を手伝う。仕事があるときは村外に出て働くような状況だ。コロナ禍の間はまだ仕事がなく、農業をして食べ（自給）、そして残りを売る。しかし、とれ高は不安定だ。そして、景気が悪く、小さな子供がいるとお金が必要なため高利貸し（日利）からの借金問題があり、また、水不足や米の生産のために 2 ～ 3 回播種する必要があるという農業問題もある。この地区にはサトウキビ畑はなく、主に自給用の稲作と野菜栽培が行われ、4 ～ 5 世帯は牛と水牛の飼育をしている。両親は農業を営み、子供たちは建設業などの日雇いで補う。主に村またはウドンタニで一時的な日雇いが多い。若い人たちは、以前働いていた工場から呼び戻しの電話があった場合は戻る。家にいて、会社から連絡が来るのを待っているという状況だった。

区長は「商売や農業を今はやっていない。区長として働いているので、時間がない。区長になると、会議に行くために犠牲を払わなければならない。」と語る。区長になる前は、区長補佐として、区長補佐になる前はバンコクで働いた。でも両親が病気だったので 38 歳のときにパンドーンに戻り、50 歳を過ぎて区長になった。夫は畑をやり、娘と息子はバンコクで働いている。孫（娘の息子）と同居している。

村落基金はまだ利用可能だが、お金の借り入れは農業のためだけに限定さ

れている。物価は上がるが、賃金が上がらないためさらなる借金問題が生じている。若者は外で働き、老人は家（村）にいるのがパンドーンの暮らしで、4 ～ 5 人の世帯で、1 人しか仕事をしていないと借金問題が生じてしまう。

区長はあと 5 年、60 歳で定年を迎える。2 年前、村長（市自治体）選挙があり、男性 2 人、プラチュアップ氏の義理の娘の 3 人での激戦だった。当選者は元市自治体議員で市自治体長に立候補した。（彼は前行政村長の息子で、選挙違反のイエローカードで失職した。）パンドーンの区長は 20 人で、女性も男性も 10 人いる。女性の区長がいるのは 1、2、3、4、9、11、17 区で、区長が定年を迎える区が 2 つあり、20 区と 7 区では新しい候補はすべて女性だった。男性は外で働いているため、女性の投票が男性より多く、女性が女性を選んだ形になっている。20 区区長（タナポン・チャイヤポン氏）は、53 歳で心臓病により村長になって 7 年で死去した。この区長は良い仕事をしていたので残念だ。区のグループ内の人々を助け、また区のメンバーのために働いた。

3 年前に、インタビュー調査を行った女性グループの現状は以下の通り。女性グループは今も活動中で、生地からのバッグ製作、コースター、木製テーブル、せんべい作りをしている。コロナの流行時は外出ができず、グループの活動は休止した。去年もまだコロナが流行し、村人たちは外に出る勇気がなく、一緒に活動できなかった。コロナの感染は今は減少している。

要約すると、コロナ禍では村は強くなった。怖くてどこにも行かずに家にいなければならず、誰が病気になってもお互いに助け合わなければならなかった。

②ノッパドン・シーペット氏（P 行政村 2 区出身、元区長・元行政村長サムルワイ・シーペット氏の息子、バンコク近郊サムットプラカーン県在住）へのインタビュー

2021 年 P 行政村のパンドーン市自治体（テッサバーン）、コンパーンパン

ドーン市自治体（テッサバーン）の選挙では、少なくとも 1,000 バーツが配られた。カネを使った選挙はパトロン―クライアントの関係ではない。父であるポー・サムルワイ元区長は威信があった。パトロン―クライアント関係の中にいた。しかし、今の区長はパトロン―クライアントの関係の中ではない。ドークマイさんはかつて保健ボランティアで、主婦のグループだった。パトロン―クライアントの関係の中ではなく、本当に社会のために働く。最近、村長にはこのような女性が増えている。国会議員選挙について言うと、タイ貢献党や赤シャツは党の裏切り者を支持しない。パンドーンで著名なチャイヤサンーン家は、今は威信なんてなく、プラチュアップ・チャイヤサーン（元大臣）は 2020 年に死去した。1 区からは、料理人として 4 ～ 5 人の男性が日本で働いている。若者は韓国に働きに行くことを好む。中には観光ビザのみで就業ビザなしで働いている人もいる。

村の今の潮流は、親軍政府はいらないというところだが、大麻の苗を配ったことで、親軍政府のアヌティン保健大臣（タイ誇り党）が好きな村人もいる。2019 年の総選挙では買票が少なかったと感じている。しかし、行政村や市自治体レベルでの選挙はお金を配る買票が行われ、地域社会では拒否するのが難しい。

(2) T 行政村でのインタビュー

2019 年に引き続いて①ウボンラット病院でコミュニティ開発に携わる看護師にインタビューを行った。そして今回はウボンラット病院医師としてコミュニティ開発に尽力してきた②ターンティップ・タッムワラクーン医師にインタビューを行うことができた。さらに 2019 年に引き続いて③女性グループのリーダー（主婦グループの元代表）にインタビューを行った。そして夫である④行政村評議会議長にもインタビューを行った。

①ウボンラット病院スタッフ（看護師）のチャヤーニット・ブットディー氏へのインタビュー

病院には患者のためのスクリーニングポイントがある。 ラーマーティッボディー財団により病院入口のところに患者検査場（テント）を建てた。

患者数は現在は下降傾向にある。しかし今年 2022 年 4 月～ 5 月のソンクラーン休暇は感染がピークに達し、1 日当たり約 200 人の患者が訪れた。そのためコミュニティ隔離（CI）、自宅隔離（HI）、自己隔離（SI）を行う必要があった。病院はレッドブルカンパニーの 49 部屋の使用を要請、また地方公共団体にネットワークを利用するための援助を要請した。そして各コミュニティにコミュニティ隔離（CI）を要請した。もし症状が重ければ、病院に来るようにと要請した。バンコクや他県から帰省する患者を受け入れたため、2020 年 8 月には、ベッドに全く空きがなくなり、レッドブルの寮を利用した。病院のベッドは 30 床で、他にコロナ特別病床にはベッドが 60 床ある。さらにサンカプラチャラットを新たに建設した。すべて寄付で予算は 2,000 万バーツだった。新たな緊急事態に備えて、救急病棟を建築中で、土地は寄付により自ら購入した。アピシット医師は定年して 2 年になるが、医師を続け、またコミュニティの仕事をしている。また、ターンティップ医師がフードバンクを設立した。現在、娘がウボンラット病院の院長を務めている。そこで積極的な支援、コミュニティのための支援のために地域の介護者（CARE GIVER）の制度をつくり、社会的企業を設立した。また、病院認定協会より DHSA 地区医療システム認定、HA 病院認定を取得した。ウボンラット病院財団は病院へ機器を寄付し、建物を建築した。豊かな生活のための持続可能な地域開発財団は、東北（イサーン）地域には地域開発のネットワークがある。

新型コロナウイルス感染症の最中に、ウボンラット病院財団は医療設備をこれまでの 2 倍になるように調達した。調達できないときは、財団のもつネットワークから寄付を受けた。さらにラーマーティッボディー財団と連携して、

スクリーニングポイントとトイレを作った。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行後、財団はウェブサイトなどで情報を広めるべきだったが、ほとんど更新することができなかった。その理由としては、IT 分野で働くためのコンピュータ技術者を雇ったばかりで、まだ 1 ヶ月にならないこと、カム・クーン・ジャーナルは発行の間隔が少し開き気味になったことがある。しかし、保健ボランティアの財団やネットワークを活用して新型コロナウイルスと闘っており、新型コロナウイルスを専門とする人が指導に来た。さらに、行政村健康増進病院に、保健ボランティアで新型コロナウイルスの感染拡大防止のグループを作り、新型コロナウイルス情報の報告システム（保健ボランティア→行政村健康増進病院→郡の新型コロナウイルス情報センター）を作った。

死者数は最初は 5 人くらいで、ワクチン接種を受けていない高齢者が死亡した。ウボンラット病院は、1 日あたり 1,000 件のワクチン接種を実施し、ワクチン接種キャンペーンで県内で 1 位を獲得した。地域の看護師（ウボンラット地区の人々）を 20 人養成した。しかし看護師ポストの関係で頭脳流出の問題がある。看護師 10 人くらいはどこかへ行ってしまった。ウボンラット地区から子供を選抜し、4 年間看護を学ぶための奨学金を与えて資格をとらせてウボンラットに戻ってもらい、仕事をしてもらう計画だった。しかし、卒業後はポストが不足したため、他でポストを得てしまった。

地域介護者（CARE GIVER）は、ボランティア精神のある人なら誰でもなれる。週 1 回対面でバンディットアジア大学で学び、その後オンラインで学ぶ。地域介護者（CARE GIVER）が、すでにコミュニティにいて、週 6 日勤務で最低賃金は 1 日あたり 320 バーツになる。ドリームワールドの社長が 6 人、ラーマーティッボディー財団が 6 人、雇用を支援した。行政村の区ごとに 1 人の CARE GIVER を養成し、現在、22 人いる。結果として寝たきりの患者は生活の質が向上した。地域介護者の役割は、朝は寝たきりの患者の世話、午後は糖尿病や高血圧の患者さんを訪問した。地域介護者は試行して 3

年になり、コミュニティは人間中心という考え方のもと、養成にはナムポーン病院のネットワークを用いた。村人たちを自立させ、村人が良好な生活の質を保てていれば病気も減り、病院に来る必要もなくなるという理念がある。アピシット医師は、毎月プラウェート・ワシー博士とスワンサームプラーンホテルで面談し、プラウェート博士よりアイデアを得たらそれを実践する。病院が行政村を週 1 回訪問する（合計 6 行政村）。午後、コミュニティに行くときは、看護師、公衆衛生研究者、保健ボランティア、地域介護者（CARE GIVER）が同行した。コロナ感染のピーク時には村人に 1 日あたり 200 人分の薬を届けて、効能があった。今は 1 日あたり約 10 人の感染者になった。しかし、メタンフェタミン使用者のクラスター（感染）が起こり、また小さな児童センターのクラスターが発生した。このように、現場への迅速な対応とコロナの検査会場での病歴の聴取、厳格な検査を心がけた。

②ターンティップ医師へのインタビュー

アピシット、ターンティップ両医師（夫妻）とも定年退職している。そして今、娘がウボンラット病院院長として勤務している。ここで医師は 1. 地域コミュニティを病院の支援に目を向けさせ、病院を自立させる、2. 医学生を地方で働けるように訓練する、3. 障害のある人々と共働、の 3 つのことを行っている。

ターンティップ医師は、3 つの話をした。まず最初の話は病院についてである。政府の病院は予算の問題があり、病気の人の世話をしてお金を稼ぐ。本当は人を元気にしなければならない。病人から予算を得るのではない。さまざまな分野、企業、後援者からの支援があって、ソーラールーフを 2 年間使用して、100,000 バーツ節約した。協力関係にあるラーマーティッボディー病院は、医師の弟子たちの地域での活動を支援して、地域病院の発展に協力している。ここでは新しいタイプの地域介護者（CARE GIVER）を育成している。午前中は患者のケアの研修、午後は村の人々が自立するのを支援する。

研修が終われば午前は病人に、午後は職業（仕事）に関わる。その間、何か問題があれば状況に応じてそれに応じて対応する。「家から遠く、心から遠く」から「家から近い、心に近い」がモットーだ。今は、3 チームで 22 名おり、親戚に高齢者がいる場合、親戚の人の支援やリハビリなどを行う。事故や病気で寝たきりの人が再び歩くことができたケースもある。

二番目の話としては、医学生の話になる。今の学習システムが学生をやる気を失わせている中で、ウボンラット病院では、医学生向けの研修を行い、自身に誇りを持たせている。ここでは、医学生たちが健康の要因、職場、医師の役割、地域社会について学ぶことができ、学生を参加させ、考え、実地研修してもらっている。普段、見学や研修のとき、スタッフは説明しかしない。しかし、ここでは医学生が問題の解決に関わっている。

三番目の話としては、障害者の話になる。障害のある人については 2 つの見方がある。1 つは仕事・収入があること、もう 1 つは自立できることだ。タイには障害者の 1% を雇用する法律があり、雇用形態は 3 つある。①座って仕事をする場所を整備しなければならない。②障害者が仕事ができるように基金から支出する。③企業に直接連絡する部署を持ち、障害者がその部署で働けるようにする。財団は従業員 1,000 人を抱えるフェニックス・ハウスに対し、初年度は障害者 10 人、 1 年後には 38 人、計 48 人の障害者雇用を要請した。障害のある人たちが職場に来て、調理、カード作成、会計、野菜栽培、苗作り、農産物の売買などを手伝っている。農産物の 70%はフードバンクが購入し、入院中の患者のための食事を作る。また、患者が自らのモットーを定める「糖尿病は簡単ではない」プロジェクトがあり、それは患者自身の約束で、地域介護者（CARE GIVER）がグループ活動を主導する。

さらにターンティップ医師は、以下のように述べた。「新しい知識を得ても、他の仕事もあるのですべてを直接管理することはできない。誰もが自分の活動や行動を変えなければならない状況になった。仕事も治療費もなく、村に戻ってきた人たちのような感染者のケアを保健ボランティアに手伝って

もらう。自主隔離にはさまざまな種類がある。たとえば寺院の本堂、田んぼのベッドなどで、隔離をした人には何か食べさせなければならず、それにはコミュニティとの関係が必要だ。保健ボランティアが選別の役割を担っているが、感染者は自分自身の責任で自主隔離する。そのため感染者をふるい分ける場所のための予算を要請した。職員はワクチンの問題に適応する必要があり、いつでもどこでもできるだけ多くワクチン接種サービスを提供した結果、86% の人が 2 回ワクチン接種を行った。」

コロナ禍でも継続的なコミュニティ開発のためのグループ活動は続き、新型コロナウイルス感染症により、オンラインに方法が変わった。村人たちは LINE やオンラインを使って会議をすることができる。看護大学は技術面を担当し、病院はその成果に追随する。地域介護者は、地域社会が人を選び、地域社会も参加者してもらうという考え方だ。しかし、失職したり、やる気のない人は問題をかかえたりしてしまうため、「良い人材を集め、さらにいい仕事をしてもらう。デキる人ではなく、良くする人に来てもらう。」というように考えている。ターンティップ医師はここで働いているが、給料は受け取っていない。この場所は自分たちで維持管理してほしいと考えている。

③プラサート・ラオサアット氏夫人（5 区の女性グループのリーダー経験者）へのインタビュー

村は強いコミュニティであるとの自覚があり、病気でも、病気でなくても、健康面の世話、自宅での世話をする。今ではプラサート夫人は健康上の問題のため主婦グループ（女性グループ）のリーダーではなくなり、若い世代がリーダーになっている。現在、30 ～ 40 人の織物主婦グループがあり、天然染料で染めたコットン（ファーング＜スオウ＞、藍）を作っている。

コロナ流行の際の状況を以下のように語ってくれた。「バーンプー（5 区）の保健ボランティアは女性が多く 10 ～ 15 人程度で、男性は 2 ～ 3 人にすぎず、10 人を 1 人で担当している。保健ボランティアの人も主婦グループに入っ

ている。村の人々も新型コロナウイルスに感染しているが、コロナウイルスを持ち込むことを忘れて子供たちが戻ってくることはほとんどなく、コンケンからは戻ってくるが、バンコクからはめったに戻ってこなかった。県間の移動が認められたときは、まずは電話して、村に着いたら田んぼで自主隔離をした。今は全員が 3 回のワクチン接種を受けているが、まだ感染する人がいる。新型コロナウイルスが村の人々を苦境に追い込んだ。こんなに多くの人が亡くなったのは初めてだったが、持病がなければ死ぬことはなく、その後村の人はコロナでは死ななくなった。新型コロナウイルス感染者には補助金があり、1 人あたり初期には 500 バーツ、その後は 250 バーツが支給された。」

④ T 行政村評議会議長、プラサート・ラオサアット氏にインタビュー[6]

ここでの新型コロナウイルス感染症の流行時、診断書を持った地域住民に現金を支給した行政村はウボンラット郡で 1 つだけだ。コミュニティを助ける政府の政策への対応により感染者 1 人当たり 500 バーツを支給したが、その後予算が足りず 1 人当たり 250 バーツの支給になった。社会開発局の規制により、その地域住民と認められるのは住民登録をしている人のみだ。

他の場所から村人や子供たち、孫たちで戻ってきた人はほとんどいなかった。戻ってきても行政村には全く知らせない。区長なら知っているはずだ。しかし、行政村はいろいろなことを手当した。バーンノーンプー（5 区）では、ラジャマンガライサーン大学が機織りの支援について行政村と合意があり、農業では、ピットトーングランプラプロジェクトでバーン・ノーン・サアード（1 区）に、野菜配達用の冷蔵倉庫を設置した。1 日 1 バーツのグループはまだ継続中で、今は 800,000 バーツあり、県が 200,000 バーツ、行政村が 50,000 バーツを拠出した。職業グループを支援するために、ラジャマンガライサーン大学が学士卒業者を採用すると募集をかけ、その仕事を遂行するために選出されたラジャマンガライサーン大学職員が地域に来た。そして、ラジャマンガライサーン大学は、職業グループと協働するために地域

の失業中の 5 人の若者を雇用することを発表し、行政村長に報告に来た。

新型コロナウイルスの流行時、村に帰って来る人は多くなかった。皆が自分自身を救いたい、そして節約した。トゥンポーンが大きな影響を受けたとき、約 300,000 バーツの予算を使って金を支給した。失業した若者は、家賃も食費も無いので雇用主によって家に帰らされた。行政村が村で自主隔離や病院に来る前の待機センターを手配した。彼らは借金問題を抱えて、特に日利月利の高利貸から借りている。ウボンラット病院は、保健ボランティアにコロナの研修を行い、7 ～ 10 世帯の世話をさせた。1 日 1 バーツのグループは、お金を集める村人たちを行政村職員が支援し、規則に従って成功した。まず人々がグループを立ち上げ、その後政府（行政）が入ってくる。1 日 1 バーツグループは、入院した場合 1 日（泊）100 バーツ、出産時に 500 バーツ、死亡時に 2,000 ～ 15,000 バーツを受け取ることができる。農業面では、軍の兵士が地下水の掘削を支援し水質チェックも行った。コンケン大学農学部のランサン教授が充足経済プロジェクトを支援し、農業グループはコンケン大学と連携して安全な野菜を育てた。農作物は取引業者に売ったり市場で売ったりする。ポー・トンバイは相変わらず元気だが、でも受け継いだ子供たちは自給自足的に農業を行っている。

7. 2023 年の総選挙前後の 2 つの農村のプラチャーコムのダイナミズム

2023 年 5 月 14 日には、4 年ぶりの総選挙が実施された。選挙では 500 議席中、刑法 112 条（不敬罪）の改正や徴兵制の廃止を訴えて若者中心に支持を集めた前進党が 151 議席で第 1 党となった [7]。またタクシン派赤シャツ系のタイ貢献党が予想に反して 141 議席にとどまった。一方親軍政党はタイ誇り党が 71 議席、国民国家の力党が 40 議席、プラユット首相が国民国家の力党から離党して結成した新党であるタイ団結国家建設党が 36 議席と 3 党を足しても過半数にほど遠く、惨敗した。その後ピター前進党党首が国会議員を罷免

されるなど紆余曲折を経て、8 月 22 日にタイ貢献党が主導してタイ誇り党も加わった連立政権でセッター首相が誕生した。同日、15 年ぶりにタクシン元首相が帰国し即日収監された。

このような今回のマクロ（国家）レベルの動きは、ミクロ（地域）レベルの市民社会形成にどのような影響を与えたか、5 月 12 日－ 14 日のフィールドワークによるキーパーソンへのインタビューより分析する。

(1) T 行政村でのインタビュー

T 行政村においては、2022 年に引き続いて①ウボンラット病院でコミュニティ開発に携わる看護師、②ウボンラット病院医師でコミュニティ開発に尽力してきたターンティップ医師にインタビューを行い、また③ T 行政村事務局長にもインタビューを行った。

①ウボンラット病院スタッフ（看護師）のチャヤーニット・プットディー氏へのインタビュー

政治や選挙については昔と違って、今では村人がより多くの選択肢があり、より思慮深くなっている。かつて T 行政村では、赤シャツ村であるとコミュニティに看板を設置し、赤シャツ支持であることを表現していた区があった。しかし、今回の 2023 年の選挙では、村人たちは誰を選ぶかを明確に表明することはほとんどなかった。村の人々の多くは元々は赤シャツ支持であったが、変化する傾向があると予測する。変わりそうだと村の人たちは言っている。そしてめったに仕事をしないと前職（ムクダー）の仕事ぶりを批判的に評価し、党の政策が実際にできるかどうかを検討する必要があるとしている。このように村人たちは賢くなり、約束をしたのに守らなかった政治家に批判の目を向けている。

今回の選挙では、おそらくタイ誇り党のエーカラート候補が村に行きわたっている。タイ人には政治的イデオロギーがない。党の移籍などが示すよ

うに簡単に変わることができるくらいとてもとても不安定だ。若者は前進党の政策に興味がある。ウボンラット郡では前進党のことをよく口にするようになった。しかし、政策について語る候補者はいない。また、票を買う議員がいるとの情報がある。

かつての政治は現代とは違い、地域に役立つプロジェクトを見つけ、地域を訪問しては課題を見つけてアドバイスをして村人たちを助けた。しかし現代の政治はより自分の利益のためとなった。政治家は、自分が国会議員に当選しそうな所属政党を探すようだ。今日選挙運動はデジタル化して、一部の人々はオンラインのニュースや情報にアクセスできない。にもかかわらず、今はこの地域コミュニティで候補者を見なくなった。コミュニティ内の人々がその候補者の情報にアクセスできなくなった。選挙運動では候補者本人は現れなかったが、ソーシャルメディアを通じて見られた。そこで党の方針を伝えても村人たちには伝わらなかった。村人たちに問題を解決する方法を口約束するにとどまった。

フアカネーン（集票人）を使用して村人の名前を書き留めた。友達が票を数えている。今回は村の人々が候補者を直接見ていないため白票（棄権）の割合が上がる可能性がある。悲しいことに保健ボランティアがすべての候補者からお金を受け取っている。なぜなら保健ボランティアボランティアは地域の多くの人々と関わることができるからだ。

②ターンティップ医師（64 歳）へのインタビュー

トゥンポーンには 5 － 10 区（ノーンプーを含む、先住者）、1 － 4 区（ダム氾濫時の他所からの移住集落）、道路沿いの村民のグループ（公務員、または都合により家屋を購入した人）の 3 つのグループがあり、グループはそれぞれ異なる文化を持っている。

先住者グループは政府の支援に何度も裏切られてきた人たちだ。したがって、政治的にはあまり興味がなく、政治的な主張をアピールすることもない。

たとえば、システムが良くないため、ナムフォン川の水位が下がっても改善されていないため、使用できる水がない。村の人々が誰が当選するか政治にあまり関心を持たないのはそのためだ。

政治的見解の変化を引き起こしたのは移転によって来た人々のグループだ。居住地には（人材）開発プロジェクトがあり、インフラ整備やピットトーンランプラプロジェクト（王室プロジェクト）などがあった。また、道路沿いの人々は、教育を受けることができたため、他とは違う考え方や視点がある。

残念ながら政党が選んだ政治家（タイ貢献党の現職のムクダー氏）は、業績がなく地方政治家の特徴がある。しかし、コミュニティの人々のニーズを満たすためには機能しなかった。お金を払って票を買うので、選ばれる。タイ人の特徴として、金を受け取ったので投票する必要がある。

今回の選挙で本物の候補者が演説するために来るのを見たことがなく（保健ボランティアに会うのは含めない)、選挙運動の看板と選挙カーしか見当たらない。エーカラートが当選すれば、提案されている救急棟を要求できると発表して、市場で選挙運動をしていた。このように候補者のプレゼンテーションが以前とは異なっている。また、子供たちを通じた選挙運動がある。例えば、医師の孫の場合、祖母である私に緊急棟を建てるからエーカラートを選ぶように言った。さらに、保健ボランティアを通じたものもあって、金が配られている。

村人たちを観察すると、あまり理性（合理性）を感じない。100 万ドルの基金や助けとなったプロジェクトのような記憶によって動かされている。候補者が与えるものは、お金、モノだ。タイ人が仏法の悪徳を恐れていることを私は知っている。もし受けとっても、あえて悪徳とは思わない。中流階級の視点は、軍政の首相にあきあきしていた。したがって、元の支配者（現首相）とあえて対立するグループを支援するようになった。また、新しい力の波、新しい選択肢を求める大規模なグループが生まれた。彼らのほとんどは

若者だ。投票することは力だ。したがって、合理的な決定を下す必要がある。

今回の選挙への期待は汚職問題の解決だ。衛生マスクやワクチンの政策が曖昧で答えが見つからない。古い物を選択せず可能なものを選択してほしい。最良の選択ではないかもしれないが、それは現在よりも良い選択になるだろう。タイ貢献党は、最低賃金やデジタルマネーなど可能な限り不可能なことに対処することだ。前進党は、徴兵の役割の削減を自発的に提案しようとしている。

タイ国民がタクシンに始まるポピュリスト政策を望んでいるかどうかは職業に応じてだろう。福祉カードを手に入れた家は、そのカードを持っていることをうれしく思うだろう。ポピュリスト政策はタイの公衆衛生政策に大きな変化を引き起こし、サービスにアクセスする人が増えた。その結果、公的医療制度の仕事（重荷）が増加した。そして利益が削減されたため、民間部門が反対した。解決策は患者の入院費用を少しでも高くすることだ。このようにポピュリズムには十分なお金がないにもかかわらず、人々を甘やかすという限界と人々にチャンスを生み出すという利点がある。

村の人にはターンティップ医師夫妻は民主党支持とみられているようだが、私は民主党支持を表明したことは一度もない。チュアン・リークパイ氏は、チュシット医師（アピシット医師の友人）が彼と親しかったため、1999 年にやって来て、センター（カムクーン）を見に連れて行った。村人たちに私たちが民主党支持者であるというイメージを与えている。しかし、5 年ほど前に赤シャツ支持者グループとのいざこざがあった。赤シャツがウボンラット病院を取り囲み、その時医師の母親がその病院の集中治療室（ICU）に入っていた。なので赤シャツ系の政党は支持しない。

③ T 行政村事務局長ニパー・ロムチャンへのインタビュー

村人たちは政治にはっきりと目覚めている。私自身も。毎日選挙カーが行政村役場の前を通る。この選挙区では、エーカラート候補（タイ誇り党）の

関係者の県議が選挙運動をした。このプット県議は冷静な人で、彼の父親はナムポーン郡クットナムサイ行政区の市長だった。前進党がこの地域にどこまで流れがあるのかわからない。村人たちは、今回の 2 枚の投票用紙（選挙区と比例代表制）があるので混乱している。

イサーン（東北タイ）の人たちはこれまでずっと政党（プアタイータイ貢献党）で選んできたと考えられる。このように村人らは党を選ぶが、村人本人はそうは言わない。また、教育を受けた人々は、誰を選ぶかについては言わない。この地域は強い党派性があるが、誰を選ぶかはわからない。でもプアタイを選ぶだろう。村人たちの決断としては、村人たちは今でもプアタイ党が好きだが、でもどうするかは分からない。たとえば、他の郡では、人々は演説を聞くことに動員され、金が支払われた。新人のエーラカート候補の選挙カーが常に走行していた。しかし、現職（タイ貢献党）は走行していない。少数政党のセーリールワムタイ党はこの地域で選挙活動を行い、パンフレットをこの行政村で配布した。世論調査結果を見るとかなり前進党は優勢のようだが、この地域では候補者本人を見たことがない。2019 年の総選挙の時は、村人たちはちょっとした争いをしていたようだが、今回は対立や争いはないようだ。

もし前職が当選した場合、村人は前職にあまり業績がないと考えているため、それは村人が政党を選択したことを意味する。タイ貢献党と国民国家の力党の二大政党はこの地域には来なかった。ただし、集票人（フアカネーン）を送ってきた。エーカラート候補はコミュニティの中を歩いた。ムクダー候補（前職、タイ貢献党）は歩かなかった。

(2) P 行政村でのインタビュー

P 行政村では、2019 年、2022 年のフィールドワークに引き続いて①ドークマイ第 2 区区長のインタビューを行った。また 2019 年に引き続いて国民国家の力党から P 行政村を選挙区として立候補した②モントリー・プムチャ

イ氏にもインタビューを行った。

①ドークマイ・プラスワンシリ 2 区区長へのインタビュー

投票日直前の村の状況としては、パンドーンに来てくれた候補者は、チャッカパット、ティーラチャイ、プラユットの党のアランヤーで、モントリーはたまにしか来ない。他の番号の候補者はめったに来ず、めったに見られない。現職のチャッカパットのマイナス面は、党を移籍したことだ。

村の人々は政党はタイ貢献党（比例区）を選ぶが、選挙区はまだ検討中だと言っている。党を移籍したチャッカパット（タイ誇り党）はおそらく落選し、ティーラチャイ(タイ貢献党)が当選するだろうと話していた。パンドーンにはチャッカパットとティーラチャイが演説に来た。

村人たちからは、タイ貢献党の方が人気があると聞いている。モントリー（国民国家の力党）は、村人に好かれているが、村には来ない。チャートパタナークラー党はまだ知られておらず、村に来たこともない。村人が本人を見た 2 人の候補者のどちらが当選するかは私にはわからない。

村の人たちは、前進党の政策の原則は良いと述べた。しかし、前進党は全く村に演説に来ない。若者は前進党を好む人もいる。さまざまな分野で人々を助けることができるかもしれない。どの政党が最も優れた政策を持っているか、村の人にはどの党がより多くの人に利益をもたらすかを比較して投票してほしい。

かつては、村の人がみな赤シャツ支持だったため、パンドーンには対立はなかった。しかし、赤シャツ系の候補者が 2 人になった今でも、村人たちはそれぞれ支持する政党があっても互いに対立することはない。現在村の人が気に入っているのは 3 つの党で、タイ貢献党、前進党、タイ誇り党だ。タイ誇り党は、党は知られておらず候補者（チャッカパット）だけが知られている。彼はこの地域で生まれたから。ティーラチャイに関しては別の地域の人だが政党（タイ貢献党）が好かれている。前進党は若者に好かれている。

村人たちは、新しい世代の政治家が議員になった時、もっと多くの人を助けるかもしれないと言っている。より良い政策によって、新しい世代が下院議員になったときに古い世代と比べてどうなるかを試してみたい。たとえば、薬物汚染がなくなるかもしれない。今は薬物が安い。タクシンがいた頃は薬物の価格が高く、麻薬も不足していた。昨今、薬物問題が多発している。薬物を買うためによく盗みを働く。パンドーンの住民もこの問題を抱え、何人かは治療を受けて症状が良くなった。

首相には高齢者を大事にしてほしい。機会に恵まれない人、障害者、寝たきりの病人など。仕事については、失業者には仕事を与えるべきだ。各政党には政策があるが、どの政党の政策が国をうまく導くかは国民が見極めるだろう。そして私はタイ貢献党を最も注目していて、村の人たちもこの党を最も支持している。タイ貢献党の公約で最低賃金 600 バーツ（1 日）があるが、これまでの 2 倍の高賃金、雇用主もムリだと考え、人々も同じことを考えている。

タクシンが戻ってくれば状況は改善するかもしれない。しかし、党にも目を向ける必要がある。村民はタクシンが戻ってきて麻薬問題に対処してくれることを望んでいた。タクシンが不在だったため麻薬は増え続けた。現政府の（アヌティン保健大臣の）大麻政策は、なぜ解禁ではないといいながら苗木を配布するのか？植えている人もいる。どうしたら人は依存症にならずにすむのか？

コロナ禍でのアヌティン保健大臣の政策の成果としては、人々が村に入るときは、チェック・検査を義務づけたので、コロナ禍ではハードワークだった。でも村人を助けるために多くのことをしていた。100 点中 90 点と評価する。食用大麻について、まだ薬物の中毒には影響はなく、今、村人たちは苗木を植えている。保健ボランティアへの報酬は 600 バーツから 1,000 バーツに増加した。それには同意する。報酬が増えるとモティベーションが上がった。しかし、コロナ禍の仕事の中で保健ボランティアからも不満があり、マイナス面もある。多くの保健ボランティア同士でもこう話していた。アヌティン

が党首をつとめるタイ誇り党は、高齢者にはまだ誰が創設したのか知られていない。しかしタイ貢献党がタクシン創設とは知っていた。

プラユット（現首相）の政策はマシだと考えられている。農民を助けると言っている人もいる。農業収入の 2 ～ 3 倍の収入保険金（保証金）を得て、それを好む人もいる。 それにはメリットとデメリットがある。村人たちは軍事政権（親軍政権）にはあきあきし、村人たちは兵士が暴力を使うと主張している人々もいる。村人はニュースやソーシャルメディアを見るので、政党や候補者についてもニュースやソーシャルメディアで見ている。政党ではなく、候補者に注目する人もいる。男性と女性では、男性の方がタクシン氏の復帰を望む声が強い。また、男性の方が言葉にして主張している。新しい世代はオレンジ色（前進党）に変わるだろう。40 ～ 50 代以上の人々は、タクシンの復帰を望んでいる。

村の人々はまだ誰を首相にしたいかについては口にしない。彼らは電気代が高いと不満を漏らす。これは現首相のプラユットの党（タイ団結国家建設党）には不利に働く。村人たちは口々に、電気代を尋ねる。2,000 バーツから 4,000 バーツ、4,000 バーツから 8,000 バーツになったとこぼす人もいる。

②モントリー・プムチャイ国民国家の力党の国会議員候補者へのインタビュー

パンドーンを含むウドンタニ 7 区はタクシンや赤シャツの影響が強く、今回もタイ貢献党が強いようだが、候補者にとっては村の人々は個人よりも、政党を重視していると感じる。多くの政策があるが、タクシンが収入を増やし暮らし向きを向上させれば、村人はタクシンを好む。タクシン氏の政策は人々が自立できる都市部ではあまり効果がなかった。しかし田舎では、村人は何かを持ってくるタクシンに依存していた。田舎の人は好きだが都会の人は要らない。自立しなければならないから。そして今回は 2 票（選挙区と比例代表区）あると言っている。タイ貢献党の好きな人はこの党を選ぶ。選挙

区の人々は私たちを選ぶ。今回の立候補者の政党の移動について、村人たちはそれを嫌っているが、そのうちの 2 人（チャッカパットとティーラチャイ）はプラスの要素（お金）を持っている一方、私にはプラスの要素がない。もし金があればたぶん勝てる。この二人はたくさん金を配っている。今年は金銭的な準備ができてないが、4 年前のようにお金があれば、当選するだろう。田舎の人はお金が好きだから。人は自分にとって良いものを見つけなければならない。誰もが貢献党に所属したいと思っている。でも、私はこれまでの党に所属する方がいい。タイ貢献党は仕事をする人より前候補者の親戚に出馬させることがよくある。チャッカパットは金のためにタイ誇り党に移籍したと思う。タイ誇り党が金を配ることは伝統だ。

前進党の流れは良い傾向にある。でもお金を使わないため、ある程度票を得るも突破できないだろう。都会では前進党は脅威だが、田舎では難しい。この選挙区では、前進党は良い流れがあり、お金もある（買票できる）が、候補者やスタッフは働く経験が浅い。タイ誇り党はお金はたくさんある。村人たちはそれを好まない。タイ貢献党については、村人は党は好きだが候補者を好きではない。そしておそらくタイ誇り党は現政権の党を裏切るだろう。そしてプラユットの政党（タイ団結国家建設党）はこの地域では当選は不可能でおそらく 5 位か 6 位だろう。

私自身には有利な点がなく、今回は当選できないだろう。しかし選挙結果を見なければならない。もし私がある程度の票を得たら、再び立候補する。今回の下院議員は 2 年以内に解散するということになるだろう。上院議員の 5 年の任期（強い権力をもった）が尽きるから。私は、今回の選挙では上院議員の支持がある親軍政党が政権をとると心の底から信じている。

(3) 選挙の結果

T 行政村の属するコンケン県第 4 区では、タイ誇り党のエーラカート候補が現職を破り勝利（33,104 票）した。前進党の候補が第 2 位（26,948 票）、

現職でタイ貢献党のムクダー候補は第 3 位（26,416 票）と接戦であった。

P 行政村の属するウドンタニ県第 7 区（前回の第 6 区から区割り変更）では、タイ貢献党のティーラチャイ候補が現職を破り勝利（33,928 票）した。前進党の候補が第 2 位（32,943 票）と接戦で善戦した。タイ誇り党に移籍した現職のチャッカパット候補はわずか 3,178 票と惨敗し、インタビューしたモントリー候補も 2,573 票で及ばなかった。

そしてウドンタニ県 7 区内のパンドーン 2 区の選挙結果について、電話で区長のドークマイ氏に問い合わせたところ、1 位タイ貢献党（選挙区＜ティーラチャイ＞ 187 票、比例区 181 票）、2 位前進党（選挙区＜スリヤー＞ 100 票、比例区 81 票）、3 位タイ誇り党（選挙区＜チャッカパット＞ 49 票、比例区不明）、で、国民国家の力党は選挙区＜モントリー＞ではわずかに 2 票であった。

8. 2019 年以降のプラチャーコムのダイナミズム

表 1　2019 年 3 月の総選挙直前時のインタビュー調査

	T行政村	P行政村
1.コミュニティの強さ	コミュニティは強い 2014年のクーデター以降も村に対立はない 自分たちで何とかするという考え方	グループ活動の面ではコミュニティは強くなく長続きしない 村の人々は政府が何を援助してくれるかを待ち望んでいる
2. リーダー	農民の長老、区長 グループのリーダー	区長
3. コミュニティを強くするアクティビティ	村落基金グループの活動など多くのグループ活動 協同組合の結成 コミュニティ内のピットトーングランプラプロジェクト 障害者のグループ結成	女性グループ 高齢者の趣味活動グループ
4. コミュニティのコンフリクト	政治面ではある程度の違いがあるが地域内の激しいコンフリクトはない	政治面では村の人たちの大きな違いはなく、コンフリクトはない

5. 選挙への認識	クーデター以来の選挙ということで選挙については関心があって目覚めている	選挙についてはT行政村より非常に強い関心があり、目覚めている 買票のうわさは絶えない
6. 政治への見方	赤シャツ派中心で黄シャツ系も	赤シャツ派が圧倒的

表 1 は 2019 年 3 月の総選挙直前のインタビュー調査をまとめたものである。2014 年のクーデター直後の調査時と状況は大きくは変わっていない。T 行政村ではコミュニティは強く、自分たちで何とかなるという考え方やそのためのグループの結成活動は活発である。一方、P 行政村は政府への依存が強く、グループ活動も長続きしない。そのため政治・選挙への関心は強く、赤シャツ派が圧倒的である。

表 2　2022 年 8 月のコロナ禍でのインタビュー調査

	T 行政村	P 行政村
1. コロナ禍の状況	村外で働いて人々は、村の人たちに感染させるのを恐れてあまり帰ってこなかった	多くの村の人たちがバンコクや他県から仕事を失ったために帰ってきた
2. 新型コロナの際の対応	行政村は待機センターを用意した ウボンラット病院は様々な活動を行い、また保健ボランティアも新型コロウィルスへの特別な研修を行った	保健ボランティアが感染者と行政をつなぐ役割が増えた 多くが女性で強い信頼関係を築いた
3. コミュニティの強さ	ウボンラット病院が CARE GIVER のシステムをつくり、自助・自立を促す コミュニティが基本で人々が中心という考え方が根づき、外部とのネットワークもあるようにコミュニティが強い	男性が仕事のためにあまり地域にいないため女性の役割が増えた 区長の半分以上が女性になり、村のリーダーもコロナ禍で強くなる必要を感じていた

4. 政治への見方	P 行政村ほど政治や選挙に関心はなく人々はそれぞれの見方をもつ	選挙結果が村や自身の生活に直接影響があると考え、関心が高い 赤シャツ系タイ貢献党の勢力下にあり、候補者の政党の移籍に大きな興味 マクロ（国家）レベルの政治の動きが村の人たちの政治意識に大きな影響を与える

表 2 はコロナ禍がようやく収束し始め調査が可能となった 2020 年 8 月のインタビュー調査をまとめたものである。T 行政村では、これまでコミュニティ開発に大きな役割を果たして来たウボンラット病院とそのネットワークがコロナ禍でも大きな役割を果たした。CARE GIVER のシステムを構築し、自助・自立を促した。一方、P 行政村も村の保健ボランティア中心にコミュニティが強くなり、特に女性の役割が重要となったことが注目される。選挙が近いという噂から P 行政村の政治への関心が高まった。

表 3　2023 年 5 月の総選挙直前のインタビュー調査

	T 行政村	P 行政村
1. コミュニティの強さ	CARE GIVER の活動が続く コミュニティが強いとの認識	女性の役割が大きい 保健ボランティアや女性グループを基盤に（男性は外部の労働市場に依存）
2.　政治への見方	2019 年と全く異なる雰囲気 現職が地域のために何をしてくれたかという認識 県会議員との連携も重要な要素に 若者は前進党に関心も候補者が選挙区に現れないとの不満	タイ貢献党への強い支持（タクシンの影響つよい） 現職（チャイヤサーン一族）のタイ誇り党へ移籍への不信 T 行政村より強い選挙への関心 若者は前進党に関心

3．選挙結果	タイ貢献党の候補者（現職）が落選し、タイ誇り党の候補が当選	タイ貢献党の新人候補者が当選し、タイ誇り党に移った現職は落選

表 3 は 2023 年 5 月の総選挙直前のインタビュー調査をまとめたものである。コミュニティの強さとしては CARE GIVER などの活動やグループ活動が活発な T 行政村が圧倒的だが、P 行政村も保健ボランティアや女性グループを基盤にグループ活動が行われ区長も女性が過半数になるなど新たな展開を見せた。政治面では両行政村とも 2019 年のタクシン派赤シャツ系のタイ貢献党一強という状況から地元への貢献が問われたり党の移籍が問題とされたりするなど大きな変化を見せた。また、前進党が若者中心に支持されるなどマクロ（国家）レベルの動きが村の状況にも影響を与え始めている。

おわりに

筆者は 1984 年に初めてタイ（P 行政村）で調査を行い、開発・発展のあり方を問い続けてきた［鈴木：1993］。その後 2000 年からは開発の担い手を問う「開発と市民社会」にテーマを広げ、T 行政村と P 行政村で調査研究を続けてきた。トップダウン型でタクシン型政治の政策頼みの P 行政村とボトムアップ型で「足るを知る経済」のようなオルターナティブな開発のあり方を志向する T 行政村という対照的な 2 つのフィールド[8] で、市民社会形成のあり方でも赤シャツ支持でグラムシ型の市民社会の流れに翻弄された P 行政村とハーバマス型の市民社会形成の萌芽がある T 行政村ではっきりとした差があった。

ところが、コロナ禍においてはどちらのプラチャーコムも人々は協力して対応せざるを得ず、P 行政村で女性の役割の重要性が高まるなど変化の兆しを見せた。そして、2023 年の総選挙では、これまでのタクシン派赤シャツ系のタイ貢献党の支持の濃淡[9] をめぐる選挙情勢から親軍か否か、地元への貢献はどうか、または若者をとり込んだ前進党の政策の是非が問われ、マク

ロ（国家）レベルの市民社会形成からの影響も変化を見せ始めた。

政権が変わればコミュニティ開発の政策も変わり、またミクロ（地域）レベルのプラチャーコムを形成する人々の意識も時代によって変化していく。開発と市民社会形成のダイナミズムの実証的研究は、今後も継続していく必要がある。

参考文献

藤田渡、「イサーンにおける「赤シャツ」農民の生態学 —— 支持・参加の濃淡と生業・生態環境の相関から ——」、『東南アジア研究』60 巻 2 号、146-182 頁、2023 年。

松薗（橋本）祐子、「タイにおける「開発」の変遷に関する考察 —— 政策と言説と実践の視点から ——」、『ソシオサイエンス』第 29 巻第 1 号、59-77 頁、2023 年。

鈴木規之、『第三世界におけるもうひとつの発展理論 - タイ農村の危機と再生の可能性 -』国際書院、1993 年。

鈴木規之、「グローバル化の中での東北タイの市民社会形成とジャパナイゼーション —2010 年以降の調査データを中心に —」『人間科学』第 27 号、219-259 頁、2012 年。

鈴木規之、「東北タイの開発と市民社会形成のダイナミズム —2 つの農村の比較から —（1）」、『人間科学』第 42 号、1-38 頁、2022 年。

Kanokrat Lertchoosakul. 2021. The white ribbon movement: high school students in the 2020 Thai youth protests, *Critical Asian Studies* 53(2), 206-208.

Prawet Wasri. 1999. *Sethakit popeang lae prachasangkom*, Mho Chaew Ban Publishing House. (in Thai)

Rongphayaban Ubonrat Changwat Khonkaen. 2019. *36 Pi rongphayaban ubonrat*, Rongphim Phrathamakhan. (in Thai)

Suzuki, Noriyuki. 2017. The Formation Process for Civil Society in Northeast Thai-

land: A Social Research Case Study of Two Villages, *Historical Social Research* 42 (3): 317-334.

Suzuki, Noriyuki, Tanapat Jundittawong, and Phonemany Vongxai. 2021. Dynamics of Civil Society Movements and Roles of Local Communities in Thailand, Japan, and Lao PDR: Common Experiences, Similarities, and differences, *The Proceeding of Thailand's 2nd Annual Conference on Anthropology and Sociology, Ubon Ratchathani, Thailand 20-21 November 2020*, 434-453.

Suzuki, Noriyuki and Somsak Srisontisuk, eds. 2016. *Civil Society Movement and Development in Thailand and Lao PDR: Public Sphere, Social Capital and Prachakhom*, Khon Kaen University Book Center, Khon Kaen.

注

[1] アピシット医師については、前号（1）で触れたプラウェート・ワシ ― の『足るを知る経済と市民社会』（Sethakit popeang lae prachasangkom）の中でも、村の人々と協働関係を築き、コミュニティ開発のためのグループ活動等を促進した足るを知る経済や地域の経済活動についての事例としてとりあげられている［Prawet:1999, p.7,13］。ウボンラット病院の様々なプロジェクトについては、以下の文献を参照のこと［Rongphayaban Ubonrat Changwat Khonkaen:2019］。

[2] ポー・トンバイ氏へは（鈴木：2012, pp.231-233 および pp.236-237）においてインタビューを行っている。

[3] P 行政村は 1996 年にタイ語でオー・ボー・トーとよばれるタンボン自治体となった。そして 2008 年 5 月 29 日にコンパーンパンドーン行政村になり、同日に都市部を意味するコンパーンパンドーン町自治体（テッサバーンコンパーンパンドーン）となった。パンドーンは 20 の区から成るが、1-3、6-8、10-13、17-20 区の全域と 4、5、14、15 区の一部が含まれる。一方パンドーンで国道 2 号に近く、また国道 2023 号に接して市場など商店の多い地区は 1956 年にスカピバーン（衛生区）となり、1999 年にパンドーン町自治体（テッサバーンパンドーン）となった。9、16 区の全域と 4、5、14、15 区の一部が含まれる。しかし、行政区分とは別に、パンドーンの人々は 1 区から 20 区までを合わせてパンドーン村という認識があるため、ここではパンドーン行政村（P 行政村）として扱い、分析する。調査対象の 1 区、2 区、7 区、20 区（調査の中心は 2 区）はもともと 1 つの区（パンドーン）で、現在はコンパーンパンドーン町自治体に属する。

[4] ポー・サムルワイ氏へは（鈴木：2012, pp.231-233 および pp.236-237）においてインタビューを行っている。
[5] タイの 2020 年の新型コロナウイルスの流行時の農村部への影響、とりわけ農村部における保健ボランティアが重要な役割を果たしたことについての詳細は、［Suzuki, Tanapat, Phonemany:2022］に記した。タイ語であるが参照されたい。
[6] プラサート・ラオサアット氏へは（鈴木：2012, pp.228-230 および pp.234-235）においてインタビューを行っている。
[7] 2019 年の総選挙で党首タナトーンが率いる新未来党が若者の支持を集めてバンコクの都市部で 81 議席を得るなど躍進したが、憲法裁判所によりタナトーンの議員資格が剝奪され、党も解党された。このような親軍政権の中で、タイの若者は不敬罪の廃止など王室改革を求めて抗議行動を起こした［Kanokrat:2021］。この流れの中で、新未来党所属の議員によって 2020 年に前進党が結成されて、若者の支持を集めた。
[8] タイの開発・発展について、松薗祐子は 2000 年以降プラウェート・ワシ ― の「足るを知る経済」や「強い社会」をめざす方向性とタクシンの現代化計画の 2 つが併存していると論じている［松薗：2023］。T 行政村と P 行政村もまさにこの 2 つの流れで説明が可能である。
[9] 藤田渡は、ウボンラチャタニ県の 2 つの区をとりあげ、東北タイにおける赤シャツ支持の濃淡と生活世界の関係については論じている［藤田：2023］。筆者の分析もこの視点と共通するものである。

本研究は、2020 年度～ 2024 年度科学研究費補助金 (国際共同研究強化（B）) : 課題番号 20KK0040「タイの開発と市民社会形成のプロセス―プラチャーコム（住民組織）のダイナミズム」（研究代表者：鈴木規之）および 2022 年度～ 2024 年度日本学術振興会研究拠点形成事業―B. アジア・アフリカ学術基盤形成型―課題番号 JPJSCCB20220002「ラオスにおけるボトムアップ型農村コミュニティ開発のための協力ネットワークの形成」（コーディネーター：鈴木規之）の研究成果の一部である。